通巻第24号

日本リハ医学会近畿地方会Newsletter

平成28年度 第1号
2016年7月15日発行

近畿地方会ホームページ
www.kinkireh.com

日本リハビリテーション医学会　近畿地方会事務局
大阪医科大学　総合医学講座 リハビリテーション医学教室　佐浦 隆一

お問合せ先
〒600-8815 京都市下京区中堂寺粟田町93番地 KRP6号館3F
有限会社 セクレタリアット内 近畿地方会事務局
TEL：075-326-1331　FAX：075-326-1331　E-mail：office@kinkireh.com

JARM Kinki

熊本地震におけるJRAT活動報告

近畿ブロックのJRATの活動

冨岡 正雄

JRATについて

JRATは、東日本大震災において、早期から組織的なリハ支援活動ができなかった教訓を元に日本リハ医学会を含めた12の団体が合同で活動を行うために結成された団体です。災害時の活動に向けて、平時にマニュアル作成や、研修会を行っています。各都道府県に代表者が1人ずつ、そして各ブロックに代表者が1人ずつ任命され、私は大阪および近畿ブロックの代表となっています。ただし、各都道府県での組織化および研修企画は、課題が多くまだ道半ば、というところです。なお災害に関する情報は、メーリングリストにより各都道府県代表者が受け、そこから関係各所へ発信するようになっています。

熊本地震のJRATの対応について

昨年発災した関東・東北豪雨における茨城県でのリハ支援活動の経験を次に生かすために、災害時には東京に本部を立ち上げ、全体の後方支援を行いながら、現地にも対策本部を設置し、都道府県代表者を中心に組織だった支援活動を行うというマニュアルを1月に作ったところでした。そのため、今回は、発災直後から東京の本部と熊本の本部を中心に、支援活動が早期から開始されることができました。

近畿ブロックのJRATについて

JRATはブロックごとの連携を強めることを推奨しています。今回の熊本地震でも、発災後すぐに、隣県である鹿児島県と宮崎県のJRATが熊本県に入り、全国からの支援のための足がかりを作りました。大阪、千葉、長崎の遠方のチームが支援に入ったのが、発災後1週間という速さでしたが、隣県のサポート活動によるものが大きいと思います。今後は、今回の大阪の7チームを含めた多くのJRATの支援活動の貴重な経験を共有しながら、近畿で災害が起こった際は、連絡を取り合って災害リハ支援ができる体制づくりを行っていきたいと思います。

CONTENTS

◆熊本地震におけるJRAT活動報告 ..... 1～2頁
◆新専門医に聞く ..... 3～5頁
◆第1回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会開催にあたって 6頁
◆第41回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会会長挨拶 6頁
◆第41回近畿地方会開催概要 ..... 6～7頁
◆2016年度近畿地方会研修会カレンダー 8頁
◆編集後記 8頁

兵庫JRAT活動報告

西宮協立リハビリテーション病院
勝谷 将史

5月5日より3日間、兵庫JRATとして熊本震災での活動をおこないました。兵庫JRATが担当した地域は御船町と嘉島町の2地区であり共に被害の大きな地区でした。すでに2日から大串幹先生を中心としたチームが先発隊で現地入りしており熊本が地元の大串先生のご尽力により御船町ではJRATチームは行政の対策会議にも出席、避難所の環境調整や避難所で生活されている方への個別指導などを中心に活動をおこなわれていました。我々第2班（PT,OT,ST,Dr）4名は御船町での活動継続と新たに嘉島町の避難所における活動を円滑にすすめる為に、看護師のラウンドへの同行や、医療介護福祉関連職種（看護師、ケアマネジャー、介護士、薬剤師）の会議に参加し、避難所に生活する方達の現状や個別のケースに関して情報共有した上で、個別ケースの相談や直接指導、環境調整などをおこないました。さらに保健士のミーティングにも参加し、地域の要介護者リストを基に介入の必要性のあるケースをリストアップ、保健師の方と共に在宅訪問をおこない安否確認と個別ケースへの生活指導や動作指導をおこないました。新たなサービスや介入が必要な場合は地域の医療・介護サービスに繋ぐことといたしました。

3日間ではありましたが車中泊や住めない家の軒先でのテント暮らし、プライバシーの確保も十分とは言えない避難所での生活の現状を目の当たりにしました。行政側のJRATへの理解はまだまだ十分とは言いがたいですがリハチームでの活動は、多職種であるからこそ成せる場面が多くチームでの活動の意義を大きく感じました。

また今回は組織化が不十分な中での活動であり課題も多く、今後しっかりとした各県レベルでの組織化が必要となることを認識しました。

大阪JRAT活動報告

森之宮病院
矢倉 一

私は、森之宮病院の理学療法士・作業療法士の3名と、被災者の方々に少しでもお役に立てればと5月14日～5月17日の期間、JRAT大阪の7番目の派遣チームの一員として参加させていただきました。

5月14日～5月16日は益城町で、17日は熊本市東区で活動しました。益城町は被害が甚大で、ライフラインは復活したものの、仮設テントや車中泊で過ごす方も多く、災害フェーズとしては“応急修復期”でした。地域が小さいこともあり、JMAT(Japan Medical Association Team)を中心に歯科医、看護師、保健師等でチームが一体となり、各被災所の横の連携もしっかりとれ、町一丸で災害支援に取り組んでいる印象でした。JRATでは先方隊の方々が保健師チームとの確固たる連携を築いて下さり、私たちが活動する頃にはかなり効率的に被災者の方々のリハニーズに応えることができました。また、JRATの構成は各都道府県から約3チーム、10名程度ですが、挨拶直後には長年ともに活動してきたかのような連帯感を共有できまし

た。具体的には段ボールベッドの導入やその高さ調整、簡易トイレの環境調整、屋外の段差解消等環境面の整備や、より負担のかからない移動方法の指導等を行いました。

熊本市東区は学校も再開しだし、避難所の集約化に取り組みだしており、災害フェーズとしては“復旧期”でした。益城町と違って規模が大きいため災所数も約80か所と多く、また1か月という期間のうちに各被災所の度差が大きくなりだしていました。JRATの活動としては各被災所の状況を把握し個々に応じた連携方法をリアルタイムに構築していくことでした。地道な活動ですが、これも復興に向かって動き出している状況であると実感できました。

活動前にJRAT　OSAKAの緊急報告会を受講し、急性期リハ対応時の原則として、C(Command & Control)、S(Safety)、C(Communication)、A(Assessment)、T(Triage)、T（Treatment）、T(Transport)がありますが、これらのうち3つのCはどの時期でも重要な事項であるとの話を聞きました。有事の際には各自が最善と考える活動を行っても、指示系統から外れ、連携もせずに行ったのでは邪魔をしているのと一緒です。我々リハ医は普段から各職種とのチームアプローチに慣れ親しんだ集団であり、日頃の医療活動が有事にもすぐに生かされるということを実感しました。

和歌山JRAT活動報告

和歌山県立医科大学 リハビリテーション医学
荒川 英樹

和歌山JRATは4月29日から5月2日までの期間、南阿蘇地域でのリハ支援活動に参加致しました。南阿蘇地域は、主要幹線道路の寸断や阿蘇大橋の崩落により熊本都市圏との連絡が困難となり、一時は孤立状態となった地域です。過疎地域であり、元々の医療・介護資源が非常に少ない上に、被災によりほとんどの病院や施設が機能停止状態となったため、早期から県外支援チームによる活動が開始されており、多職種での組織的な支援体制が構築された状況でした。毎日9時と16時頃に全ての支援団体が参加する全体ミーティングが白水庁舎で行われ、DMATやJMAT、歯科チーム、保健師チーム、薬剤師チーム、栄養士チーム、心のケアチームなど200名以上から成る支援チームの代表が参加していました。この地域におけるJRATの活動は主に避難所や施設における要介護者へのリハ支援が中心でありましたが、前任チームの努力により他の支援チームからの紹介も多く、リハ支援専門チームという存在意義が認識されている印象でした。また発災から2週間が経過しゴールデンウイークとも重なったことで、避難所から自宅へと生活の場を移す被災者が多く、避難所を中心としたリハ支援活動から在宅生活、特に在宅介護生活支援を含めたより大きな視点での地域リハ支援活動への移行が重要となる印象でした。時間の経過に応じた支援活動の変化を認識し、地元のリハ医療、介護へのスムーズな移行を見据えた活動の重要性を感じました。

滋賀JRAT活動報告

滋賀県立成人病センター
川上 寿一

滋賀では、2014年に研修会に参加したメンバーで、SNSにグループを作成していました。このSNSは登録制によるクローズなもので、ファイル共有が可能であり、メンバー外からは参照できないものです。今回は4/16にメンバーの現状確認を行い、4/17からはJRAT対策本部からの文書などの情報共有や意見交換を継続しました。4/21にミーティングを行い本部に派遣登録をして、5/2から5/5にわたる派遣が決定されました。JRATはJMAT傘下の活動との連絡を受けましたので、滋賀チームとして県医師会に状況報告にお伺いしました。また、3士会の会長に協力の依頼を文書で行いました。

派遣チームとしては、持参備品の検討と準備分担、移動手段の手配、本部との連絡・状況把握、派遣中の県内における連絡担当者などの事前準備を行いました。現地では熊本市東区と南阿蘇村での活動となりました。様々なミーティングでの報告のほか、現地の各責任者・様々な他のチーム・地域担当者などとの連絡・情報交換を丁寧にとるように留意しました。これは、指示のもとに独善的な行動にならないようにする点からも重要と思われました。職場の違うメンバーと、朝7時ごろから報告書を仕上げると24時を回る頃まで、4日間ともにすることは、日常とは大分違うものの、普段からしているチーム活動でもあります。今後の継続的な体制づくりや発災時の活動について検討や活動をすすめていきたいと考えています。

奈良JRAT活動報告

奈良東病院
鉄村 信治

まずは今回の震災で被災された皆様方に心よりお祈り申し上げますとともに、一日も早い復興を祈念しております。JRAT奈良の活動報告をさせて頂きます。6月2日より医師1、PT1、OT1の3名で現地支援に参加させて頂きました。発災後5週以上経っており、既にDMATやJMATは解散している状態でした。我々の活動地域は主に熊本市内、益城町であり、特に被害が大きかった益城町では倒壊した建物を間近に見て被害の甚大さを改めて実感しました。各避難所を巡回しましたが、5月中旬よりは介入事例は徐々に減少していき、6月にはほぼ地元のかかりつけ医や介護サービスへの引き継ぎが終わっておりました。また、避難所では各職種による自立支援への意欲も高く、過去の震災で培った教訓が生かされていると感じました。ただ未だに水道、ガスなどのインフラが復旧していない地域もあり、避難所や仮設住宅での生活が長期化する可能性もあります。JRATの活動は現地への引き継ぎを速やかに行い、適切な時期に撤退する事を意識する事が重要であると認識しておりますが、今後もしばらくは多職種による介入が必要になると考えられます。

今回は短期間の現地支援であり、あまり貢献できなかったかもしれませんが、チームのメンバーや他府県JRATメンバーとの連携が深まりました。この活動をきっかけにJRAT奈良の活動を広げていければと考えております。今後とも宜しくお願い致します。

（公社）大阪府理学療法士会の支援活動

（公社）大阪府理学療法士会 副会長
尾谷 寛隆

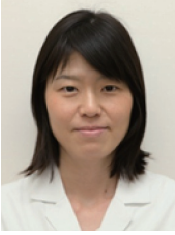
4月14日の前震、そして4月16日に本震、最大震度7、マグニチュード7.3の甚大な熊本地震が発生しました。

災害時支援対策特別委員会委員長（筆者）として何ができるか、PTとして何をすべきか、大きな課題が降ってきました。職能団体として有益な活動方策を選定することが第一と考えました。そのような中、平成28年4月18日に日本理学療法士協会から都道府県理学療法士会に「平成28年熊本地震への対応について」が発信されました。その内容の要点は、「JRATと歩調を合わせ活動すること」「地域JRAT代表者を通じ対応すること」とされていました。幸い、当会主催の災害研修会などで、アドバイザーとしてご協力いただいていた冨岡先生（大阪医科大学）が地域JRAT代表でありました。直ぐに冨岡先生と連絡を取りながら、当会からの派遣候補者の調整作業に取り組みました。大阪からの第1次隊として、4月23日から26日までの期間『大阪JRATチームA』（冨岡先生、大垣PT、筆者の3名）が現地に派遣され、熊本県益城町でリハビリテーション支援活動を行いました。その後、派遣候補者を調整するにあたり、府士会HPも利用して派遣希望者を募りました。その結果、大阪からは合計6チーム、12人のPTを継続的に派遣することができました。ご協力いただきありがとうございました。

新専門医に聞く

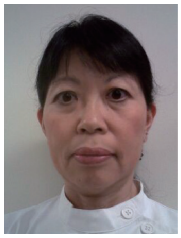
今回新しくリハ科専門医になられた先生に抱負を語っていただきました。
専門領域がそれぞれ異なりますが、リハ医学にかける情熱は大きく、
これからの地方会を引っ張る新進気鋭の方々です。
近畿地方会へのご支援を期待しております。（掲載順不同）

井元 恵津子　第2東和会病院



この度リハビリテーション専門医の認定をいただきました井元恵津子と申します。私は平成15年に大阪医科大学を卒業後、即同大学リハビリテーション医学講座に入局し2年間の初期臨床研修で各科を回った後、リハビリテーション科のレジデントとしてさらに2年間研修させていただきました。その後結婚・出産等で約5年間の休業の後再び復帰させていただきました。一度はあきらめた専門医試験の受験・合格に漕ぎつけることができましたのは周りの諸先生方のあたたかいご理解とご指導のおかげの賜物でありますこと、心から感謝致します。自身の未熟さを痛感する日々でありますが、自分なりに努力を重ねていきたと思っております。今後とも変わらぬご指導とご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

梶本 佐知子　愛仁会 尼崎だいもつ病院



このたびリハビリテーション科専門医の認定をいただきました梶本佐知子と申します。もともとは大阪医科大学脳神経外科学教室に入局し、脳神経外科医として大阪医科大学附属病院、その他の関連病院で勤務をしていました。しかし学位を取得後、3人の子育てをしている最中に、脳神経外科医として一生を過ごすことに疑問を抱き始めていました。その時、リハビリテーション医療に関わる機会をいただき、リハビリテーション科に転科しました。これまで様々な先生方にご指導をいただき大変感謝しています。

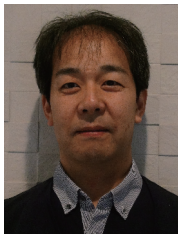
現在は、愛仁会尼崎だいもつ病院に今年4月から勤務しています。5月に開院した病院であり、私同様まだまだ未熟な病院ですが、回復期リハビリテーション病棟の立ち上げにも関わることができ、充実した毎日を送っています。

微力ではございますが、リハビリテーション医療に貢献できるよう努めていきたいと思っていますので、今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

新井 祐志　京都府立医科大学大学院 医学研究科 スポーツ・障がい者スポーツ医学教室

この度、日本リハビリテーション医学会専門医を取得させていただきました京都府立医科大学大学院医学研究科　スポーツ・障がい者スポーツ医学教室の新井祐志と申します。小生は平成5年に京都府立医科大学を卒業後、整形外科学教室に入局し、小児から高齢者まで幅広い年齢層の方の運動器障害に対して、保存療法から手術療法まで取り組んでまいりました。整形外科医として経験を積む中で、運動器の障害によって生じた機能障害を可能な限り回復させ、残された能力を最大限高めるために、リハビリテーションが重要な役割をはたすことを理解してきました。また、リハビリテーションでは特に多くの職種がかかわって治療するチーム医療としての考え方に興味を持ち、平成22年に日本リハビリテーション医学会認定臨床医を取得しました。また、平成28年には日本障がい者スポーツ専門医も取得し、リハビリテーションを通じて障がい者のADLおよびQOL向上にも携わっていきたいと考えております。今後、リハ医療と医学の発展に貢献できるように頑張る所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

白銀 隆宏　生駒市立病院 リハビリテーション科



この度、リハビリテーション科専門医の末席に加えて頂きました。4月からは新たな職場でリハ医として働き始め、リハスタッフ（PT、OT、ST）の皆さんとコミュニケーションを取りながら一人リハ医ですが、楽しく仕事をさせてもらっております。リハ専門医試験に挑戦するまでの約4年間は、前職場のリハビリテーション科の上司の先生はじめ、多くのリハ専門医の先輩方からリハビリテーションのこと、試験勉強のことなど色々とご指導を頂きました。この場をお借りして感謝申し上げます。これまでの経験や試験勉強で得た知識を今後のリハ医としての診療に生かしていけるよう、また新しいことを学ぶ心を常に持ちながら頑張っていきたいと思っております。どうぞこれからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

小倉 加恵子　森之宮病院 小児神経科

このたびリハビリテーション科専門医の認定をいただきました小倉加恵子と申します。専門医取得にあたっては、現職場のみならず前職場を含めた多くの先生方のご指導をいただき広い領域を勉強することができました。心より感謝申し上げます。私は、これまで臨床面では、主に小児神経疾患の診療に携わってきました。現在の職場は主に運動麻痺のある子どもさんを対象としており、リハスタッフの皆さんと意見を交わしながら研鑽を積んでおります。今後も仕事を通じて、子どもたちの健やかな成長のために微力を尽くしてまいりたい次第です。どうぞご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

小田 良　京都府立医科大学 整形外科

この度、リハビリテーション科専門医の認定をいただきました、小田　良と申します。平成9年に京都府立医科大学整形外科学教室に入局し、整形外科医として研修を行った後、大学院で末梢神経の基礎研究を行いました。その後は関連病院で手外科と関節リウマチを中心に診療に従事し、平成20年から大学で研究・教育・診療に従事しております。手外科、関節リウマチとも、治療においてリハビリテーションの果たす役割が重要な分野です。特に関節リウマチのリハビリテーションは、生物学的製剤によるパラダイムシフトとともに、大きな変革の時期を迎えていると言えます。この時代の流れを逃さず、リウマチのリハビリにもパラダイムシフトを引き起こせるよう、研鑽を積んでいきたいと考えております。さらに今後はリハビリテーション科専門医として、近畿地区のリハビリテーションの発展に微力を尽くして参りますので、引き続きご指導よろしくお願いいたします。

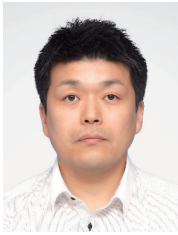
夏梅 隆至　大阪労災病院 リハビリテーション科

この度、リハビリテーション医学会専門医の認定を頂きました夏梅隆至（なつうめたかし）と申します。大学院卒業後に行った力学刺激が運動器の細胞の代謝に及ぼす影響の研究を通じて、力学刺激を主たる治療手段とするリハビリテーションに興味を持つようになりました。平成26年より大阪労災病院に赴任し、専門医試験の要件となる症例報告を完成させることができ、受験することができました。実際に試験の準備を始めてみると、リハビリテーションは、医学の幅広い分野をカバーしており、それらを理解することは、大変でしたが、自分の視野も広がったように思います。今回、専門医を認定頂いたとはいえ、未だ、知識、経験ともに不足していることを感じる毎日です。今後更なる研鑽を積んで参る所存ですので、今後とも御指導、御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

原 仁美　神戸大学大学院 整形外科

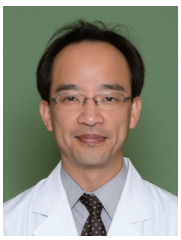
この度、リハビリテーション専門医の認定を頂きました、神戸大学大学院整形外科の原仁美と申します。平成12年に神戸大学整形外科に入局し、整形外科医としてレジデント研修を終え、大学院では骨軟部腫瘍の研究を行い、その後は骨軟部腫瘍を専門として大学病院で勤務しています。骨軟部腫瘍を専門に診療していると、運動器リハビリテーションはもちろん、がんリハビリテーションに興味を持つようになり、その重要性を実感しリハビリテーション専門医を目指すきっかけとなりました。リハビリテーションは広い分野の知識と経験が必要だと感じており、これからも日々精進してまいりたいと思います。まだまだ未熟ではありますが、リハビリテーション医学会に貢献できるように頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

吉田 清志　大阪大学 整形外科



この度リハビリテーション科専門医を取得させていただきました大阪大学の吉田清志と申します。平成15年に大阪大学卒業後に整形外科に入局しました。様々な病院で高齢者の骨折、変性疾患の手術やリハビリテーション、さらに専門分野として小児整形外科を研修してまいりました。現在は大学病院で小児整形外科を専門として先天異常や小児疾患の手術治療および関連病院で脳性麻痺を中心とした障害児のリハビリテーションを行っております。リハビリテーションの重要性を日々の診療で感じ専門医試験を受験しました。まだまだ経験の浅い若輩者ですが、今後は専門医としてリハビリテーションの発展に尽力していく所存ですので、今後とも御指導御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

白石 裕一　京都府立医科大学 リハビリテーション部・循環器内科



今年新たに専門医に加えていただきました京都府立医科大学リハビリテーション部・循環器内科の白石裕一です。もともと専門は循環器内科で現在も不整脈関連の仕事もさせていただいております。平成17年からリハビリテーション部の一員に加えていただき久保教授のご指導の下心臓リハビリを中心に経験を積ませていただきました。植え込みデバイス術後のリハビリテーションや、重症虚血下肢、重症心不全のチーム医療などについてデータを蓄積し発表を行って参りました。現在は心不全患者の骨格筋、栄養、認知機能などに主眼をおいて臨床研究を行っております。高齢化の現代において心臓疾患は非常に頻度が高く、内部障害リハビリの一つとして心臓リハビリが広く普及し、かつ質の高いリハビリが行われるよう微力ながら活動していきたいと思っています。

美舩 泰　神戸大学 整形外科

私は神戸大学医学部を平成13年に卒業し、整形外科に入局させていただき、これまで運動器疾患の診療ならびに研究に従事して参りました。現在は、上肢の関節外科を専門としております。日々の診療の中で、リハビリテーションの重要性を痛感することが多く、リハビリテーション科専門医を目指すことを決意し、皆様のお蔭をもって無事に認定を頂戴しました。専門医試験の勉強を経て、自分の知見を広げ、深めることができたとともに、今後のリハビリテーション医療の重要性の高まりを実感しました。来る超高齢化社会に対して、リハビリテーション科専門医である自分ができることは何なのか、一人でも多くの患者様に嬉しい気持ちや生き甲斐を持って過ごしていただくために、自分にできることは何なのか。日々、自分自身に問いかけながら、少しでもリハビリテーションの発展に貢献できるよう精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

南 瑠那　丹後中央病院 リハビリテーション科・整形外科

H20年に京都大学を卒業し、このたびリハビリの専門医を取得させていただきました。海外で現在の仕事となんの関係もない基礎研究に携わっていた時期もあり、臨床研修は遅れておりますが、何でもさせていただける病院、若手医師に優しい丹後中央病院のおかげでリハビリテーション科と整形外科の両方に席を置かせていただいております。

田舎にある病院ですが、回復期リハビリ病棟は96床もあり、地域住民の超高齢化が進む中、平均年齢を押し下げる活気あるスタッフ67名で成り立っています。療法士さん達から学ぶことだらけで、リハビリ専門医といっても逆に教えてもらうことばかりです。これからも臨床および学会活動に精力的に取り組んでいくつもりです。よろしくお願いします。

大橋 鈴世　京都府立医科大学大学院 リハビリテーション医学

この度、リハビリテーション科専門医に認定いただきました京都府立医科大学リハビリテーション医学教室の大橋です。私は平成8年に広島大学を卒業後、京都府立医科大学整形外科に入局し、整形外科医として勤務させていただいておりました。学生の頃からリハビリテーション医学には大変興味がありました。その関係もあり、当リハビリテーション教室責任教授である久保俊一先生からお声を掛けていただき、平成27年3月からリハビリテーション医学教室に異動し勤務させていただいております。新しい立場から改めてみると、リハビリテーション医学・医療は非常に奥が深い分野であることが実感され、今更ながら驚いています。今後は専門医として少しでも貢献できるよう頑張りたいと思います。今後ともご指導のほど何卒よろしくお願い申しあげます。

第1回日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会開催にあたって

第1回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会　会長　菅本　一臣
（大阪大学大学院医学系研究科運動器バイオマテリアル学）

日本リハビリテーション医学会ではこれまで春季にのみ行われていた「学術集会」に加えて、来年2017年度より「秋季学術集会」を開催することになりました。その記念すべき第1回を私が担当させていただきます。その本会のテーマは「すべてがかわるリハビリテーション」と致しました。

リハ関連の学会などでは初参加の企業が多数参加される予定です。日本の素晴らしい技術をリハや健康にどのように発展させていけるのか？ご参加いただける会員の方々には様々なアイデアを膨らませていただけると思います。

またこれまでの専門医会とは異なり、多くの先生方に口演の場を設けたいと思います。ゆっくりと時間をかけて討論することを楽しみたいと思います。

関節の不思議の講習会　我々の教室では人体の骨関節の3次元動態を数千例にわたって解析してきましたが、本学術集会では、関節の動きの不思議さを講習会やタッチパネル式スクリーンモニターなどで十分に理解していただき、関節を存分に楽しんでいただきたいと思います。

第１回 日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会
会期：2017年10月28日(土)、29日(日)
会場：大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）

第41回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会開催にあたって

第41回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会　会長　菅本　一臣
（大阪大学大学院医学系研究科運動器バイオマテリアル学）

本年9月3日（土曜日）に第41回近畿地方会学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会を吹田市にあります大阪大学校内の最先端医療イノベーションセンター1階　マルチメディアホール にて開催させていただくことになりました大阪大学の菅本一臣です。その際には普段は受講する機会が少ないガン、脊髄損傷、医療倫理をテーマに講演を賜ります。また、通常どおりの一般口演も広く公募いたしておりますので、是非ご参加ください。また来年は第一回秋季学術集会を開催させていただきますので、各先生方にはその予行演習としてご参加いただければ幸いです。

第41回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会

開催日時：2016年9月3(土) 11:20～18:10
会長：菅本 一臣（大阪大学大学院医学系研究科運動器バイオマテリアル学）
会場：大阪大学 最先端医療イノベーションセンター 1階
マルチメディアホール（吹田キャンパス）

〒565-0871　大阪府吹田市山田丘2-2
TEL：06-6879-5111（代表電話）
TEL：06-6210-8444（運動器バイオマテリアル学 直通）

① 一般演題

発表形式がMac PCの方は、必ずご自身のPC・アダプター及びコネクターをお持ちください。Windowsの方は、PCでもUSBメモリーでも受付可能です。

演題締切：2016年7月10日(日)　※締め切りました。

②専門医・認定臨床医生涯教育研修会（30単位）

1. 「患者及び医療チームの安全を支えるノンテクニカルスキル」
   大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部教授　中島 和江 先生
2. 「骨軟部腫瘍切除後の下肢再建ー切断から患肢温存へー」
   ベルランド総合病院副院長　倉都 滋之 先生
3. 「脊髄損傷における呼吸機能障害と非侵襲的な呼吸管理」
   大阪府立急性期・総合医療センターリハビリテーション科副部長　土岐 明子 先生

認定単位：1講演10単位
参加費：2,000円　　受講費： 3,000円（30単位一括）　事前申込：不要

※ 認定臨床医受験資格要件：認定臨床医の認定に関する内規第2条2項2号 に定める指定の教育研修会（必須以外）に該当します。

日本整形外科学会研修会単位認定済です。
単位：講演1［14-1］　講演2［5］　講演3［7］

会場：大阪大学　最先端医療イノベーションセンター1階
マルチメディアホール（吹田キャンパス）

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2
TEL：06-6879-5111（代表電話）

・・・モノレール阪大病院前駅からお越しの場合

お問い合わせ先：大阪大学大学院医学系研究科運動器バイオマテリアル学　菅本 一臣
電話：06-6210-8444　E-mail：hisho7@caos.med.osaka-u.ac.jp

2016年度 近畿地方会研修会カレンダー

●第41回学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会
日　時　2016年9月3日(土)　11:20～18:10
会　場　大阪大学 最先端医療イノベーションセンター1階 マルチメディアホール 大阪府吹田市山田丘2-2
演　題
1. 「患者及び医療チームの安全を支えるノンテクニカルスキル」
大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部 部長 病院教授 中島 和江 先生
2. 「骨軟部腫瘍切除後の下肢再建 -切断から患肢温存へ-」
ベルランド総合病院 副院長 倉都 滋之 先生
3. 「脊髄損傷における呼吸機能障害と非侵襲的な呼吸管理」
大阪府立急性期・総合医療センター リハビリテーション科 副部長 土岐 明子 先生
担当幹事　菅本 一臣 (大阪大学大学院医学系研究科 運動器バイオマテリアル学教室)
※一般演題締切 2016年7月10日(日)（詳細はホームページに掲載）

●第59回専門医・認定臨床医生涯教育研修会
日時　2016年10月1日(土)　14:30～17:50
会場　京都府立医科大学 図書館ホール
幹事　三上 靖夫 (京都府立医科大学大学院 リハビリテーション医学)

●日本リハ医学会近畿地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会
日時　2016年11月5日(土)　15:30～17:30
会場　兵庫県民会館 9階 けんみんホール
幹事　陳 隆明 (兵庫県立リハビリテーション中央病院)
※当日は同じ会場で兵庫県リハ医会学術集会が開催されます。

●日本リハ医学会近畿地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会
日時　2016年11月13日(日) 14:00～16:00
会場　京都府立医科大学 図書館ホール
幹事　武澤 信夫 (京都府リハビリテーション支援センター)
※当日は同じ会場で京都地域リハ研究会が開催されます。

●日本リハ医学会近畿地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会
日時　2017年2月5日(日) 開催予定
会場　国立京都国際会館
幹事　三上 靖夫 (京都府立医科大学大学院 リハビリテーション医学)(予定)
※当日は同じ会場で京都リハ医学研究会学術集会が開催されます。

●第42回学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会
日時　2017年3月4日(土) 開催予定
会場　ピアザ淡海(滋賀県立県民交流センター)
幹事　川崎 拓 (滋賀医科大学附属病院)

編集後記

九州北部豪雨災害時に広域リハ支援センターがされた活動報告を改めて読みました。
地域生活の再建が進むことを願います。京都で開催されたリハ学会学術集会について、
次号で特集の予定です。　（広報委員会）